

新技術を積極的に取り入れ国内山林維持に貢献 協働型ロボットアーム導入により労働負担を軽減

先代の父である大坂善次郎氏が創業。以来、十勝の幕別町にて約70年に亘って事業を手掛けている。創業当初は木工場として稼働していたが、1972年頃より主にカラマツの苗木育成・販売を開始。現在は、苗畑面積46haの経営規模で、造林用苗木として一般的な裸苗生産している。さらに、植付作業の効率化が期待できるコンテナ苗の生産や希少品種の増殖に適した組織培養といった新しい技術を積極的に取り入れながら、国内の山林維持に貢献している。

所在地	北海道中川郡幕別町忠類錦町438番地	設立	2001年
電話/FAX	01558-8-2236 / 01558-8-2756	資本金	900万円
URL	https://osakaringyo.com/	従業員数	17人
代表者	代表取締役 松村 幹了		



協働型ロボットアームの導入により単純作業を一部機械化

コンテナ苗生産において、単純作業であるコンテナに培土を入れる工程に、協働型ロボットアームを導入し機械化、労働負担を軽減した。また、機械化により発生した余剰人員を生産工程のボトルネックである移植作業に充当、作業期間を短縮した。このため、生育適期を逃さず安定した生産が可能となり、コンテナ苗の増産体制を構築した。コンテナ苗は裸苗と比べ当時は約3倍の販売単価である反面、労務費等の生産コストが大きかったが、機械化により効率化が図られ、同社の収益力向上に繋がっている。



ロボットアーム

ビジネスチャットツールや機械化等の積極的な導入

社内情報の平準化を重視しており、ビジネスチャットツールである「Slack」の導入により、社員が報告・連絡・相談をしやすい環境を整えている。また、各事業の業務進捗やスケジュールリング等、さまざまな情報を全社員で共有して、業務を効率的に進めることが可能になった。さらに、幼苗選別工程における画像選別機や上述の協働型ロボットアームの導入（〈特非〉ロボットビジネス支援機構に林業会社として初めて加盟し導入）により、先進技術を用いた業務効率化も積極的に取り組み、労働力不足の解消に努めている。



ヤンマーグリーンシステム（株）と共同開発した選別機

北海道立総合研究機構林業試験場との連携による技術開発

北海道立総合研究機構林業試験場（以下林業試験場）から技術指導を受け、樹木の組織培養による増殖技術を取り入れた。同社は、この技術の需要増加を見込み、培養設備の導入や社内体制の強化を図っている。現在は、林業試験場で研究が進められ、花粉症対策として有用と考えられている少花粉シラカバの増殖依頼を当社が受注し、生産に取り組んでいる。また、ヤンマーグリーンシステム（株）と共同で苗の画像選別機を開発する等、業務効率化に向けた技術開発にも取り組んでいる。



培養苗